

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

2018年11月20日発行 第83号

タイ便り

～タイ在住の西川会長から～

タイの社会の移り変わりは日本と比べても早いと思うことが多いのですが、ここ最近では、インターネットや携帯電話を使ったサービスの進展の早さを感じる事が多くなりました。

大手の銀行はもれなく携帯電話のアプリをリリースし、アプリを使って簡単に口座情報を確認したり、送金したりすることが可能になりました。また、カードレスATMといってキャッシュカードなしに携帯のアプリを使って、ATMから現金を引き出すことも可能になりました。ATMカードのスキミング被害が後を絶たないタイではこのサービスはセキュリティ面でもありがたいもので、最近では私ももっぱらカードレスで現金を引き出すようになりました。また、政府主導で始まった Prompt Pay という電子決済システムも大変便利なもので、相手方の携帯電話番号さえわかれば、簡単に送金できてしまいます。銀行口座がわからなくても、携帯電話のアドレス帳から名前を選べば送金できるというわけです。送金してほしい相手には金額を埋め込んだ QR コードを自分で作成し、メールや LINE で送ることもできますので、飲み会の割り勘も小銭の有無を気にすることなく、簡単に携帯上で行えるようになりました。しかも、手数料は一切かかりません。日本でも同様のサービスが始まっているようですが、本当に便利になりました。

ほかにも、食べ物のデリバリーサービスもどんどん広がりを見せています。もちろん昔からピザの宅配など、配達要員を抱え持って宅配サービスを行っていた企業はありましたが、今は1つのアプリで様々なレストランの料理が注文できます。最近では、宅配サービスはやっていないはずのレストランのレジのあたりでも料理の出来上がりを待つドライバーを見かけることが多くなりました。元々外食したり、外で買ったものをうちへ持ち帰って食べたりする人の多いタイですが、それに新たな選択肢が加わりました。

タクシーも同様です。運転マナーの悪さが問題になるタイのタクシーですが、スマホのアプリを使った車の配車サービスも始まっています。既存のタクシーとの衝突はあるようですが、競争によってサービスの向上が望めるなら、消費者にとってはうれしいことです。

このように、スマホのおかげで、タイ人の生活スタイルはどんどん便利に、変化を続けています。

一方で、ここ数年まったく変わっていないものもあります。

ある日の日本語の授業で、タイの問題について意見を求めたところ、ある学生が「タイには選挙ができないという問題があります」と発言して、はっとしました。調べてみると、タイは2011年に行われた選挙を最後に約7年間国政選挙が行われていません。20代の多いそのクラスの学生はほとんどが投票の経験を持たないというのです。社会のいろいろなことが目まぐるしく変化している中、選挙に関しては時間が止まったままの状態が続いています。どのみち選挙権を持たない外国人である私は、軍政が続いていることで政争が収まったことをむしろ歓迎している部分もあるのですが、民主主義の復活を望む声は当然あってしかるべきで、改めて7年という軍政の長さを感じたのでした。そして、本物の選挙を知らない学生たちが、なぜかみんなAKBの「総選挙」を知っていて、話はそちらに脱線してしまいました。民主主義が停滞している国の若者たちに、もしかしたらAKBの総選挙が何かしらの影響を与えているのかもしれないと、おかしなことを考えてしまいます。

引き続き、タイ社会の行く末を見守りたいと思います。

西川 弘達

報告1

～2018年度奨学金プログラム翻訳会～

今年も、奨学生からの手紙や資料の翻訳会を開催しました。今年度から、奨学金資料の見直しを行い、奨学生がインターネットを使って申請書類を作成出来るようになったため、翻訳しなくてはいけない資料も大幅に減り、奨学生からドナーへ送られる手紙だけの翻訳となりました。毎年3回から4回開催していた翻訳会も、今年は9月と10月の2回の開催で完了しました。

この翻訳会では、名古屋に住むタイ人の女性グループにご協力いただき、日本人ボランティアとタイ人女性とがペアになってタイ語の資料を翻訳していく作業を行います。今年度は終了してしまいましたが、来年も9月ごろから行いますので、興味のある方は是非ご参加ください。



報告2

～ワールドコラボフェス2018～

2018年11月10日（土）と11日（日）の2日間にわたり、名古屋市栄オアシス広場でワールドコラボフェスタ2018が開催されました。天候にも恵まれ昨年以上の人出があり、タイ山岳民族の小物やキーホルダーなどが好調に売れました。また、今回はドナー様から手作りの子豚の置物が提供されました。売上金はカサロンの家畜小屋への支援へということでしたので、こちらも頑張って販売しました。

今年の夏にチェンマイへ一緒に行った愛知大学の学生も6名ほどブースのお手伝いに参加してくれたので、いつもと違い、とても賑やかなイベントとなりました。

2日間の総売り上げは、約20,000円となりました。ご協力ありがとうございました。



報告3

～おおしま手作り絵本コンクール2018～

今年度も、富山県射水市の「おおしま手作り絵本コンクール」にタイから1冊の絵本を応募しました。

昨年は、北陸中日新聞奨励賞を受賞しましたが、本年度は残念ながら入賞出来ませんでした。

また来年頑張りましょう。

詳しくは [射水市大島絵本館](#) で検索してみてください。

報告 4

～愛知大学タイボランティアツアー～

坂 茂樹

8月19日から27日までの約1週間、愛知大学の学生ボランティアツアーのコーディネートでタイへ行ってきました。愛知大学の学生26名、愛知大学教授1名、職員1名、キャンのスタッフ1名の計29名の団体で、タイ中部ピサヌローク県のナレースワン大学、北部チェンマイのカサロンの家、バンコクと三都市を駆け抜けるツアーでした。愛知大学の提携大学であるナレースワン大学の学生と、また、チェンマイではポリラック小学校や中学と高校が併設されたドイサケット学校でも児童や学生と交流しました。



カサロンの家では、日本のやきそばや五平餅を子どもたちに振る舞ったり、縄跳び、折り紙などで楽しく遊びました。

児玉紗梨奈さん

カサロンの家に着いた時は、トイレや、お風呂が日本とは異なっていてカルチャーショックを受けました。しかし、日を追うごとに慣れていき、違和感を覚えることもなくなり過ごせました。冷水でのお風呂も想像よりは冷たくなく入ることができてよかったと思います。今回は女子学生が多かったので、お風呂が二つは時間かかり、その点是不便だなと思いました。最初は戸惑いもありましたが、日を追うごとに慣れていき行く前に思っていたよりも、ぐっすり寝ることができ、部屋の広さも今回の人数なら大丈夫でした。但し、コンセントが10人で4つは少しきつかったです。また、食事も最初は辛くて食べられるか心配でしたが、おいしくてたくさん食べられました。タイ料理に対するイメージが変わって、もっと様々な種類の料理を食べてみたいと思いました。フルーツが本当に甘くて美味しかったです。

水等でお腹を壊すかなと思いましたが、みんな無事でなによりでした。コンビニで水を一日2本買いましたが、足りなかった日もあったので、少し多めに買うことをお勧めします。外ですっと遊んでいたお風呂に入っただけで足が汚れたので、ウェットティッシュ等を常備していると部屋の床も汚れずに済むと思いました。私は、離れた方で寝ていたお風呂に直結して、寝ているのを起こしてしまおうだったので、あの部屋は寝るのには適していないと感じました。

そして、子供たちは、本当に人懐っこくて無邪気で可愛かったです。

言葉が通じなくて楽しく遊べるか戸惑いましたが、みんな一生懸命に名前を覚えてくれて、頑張って英語で話してくれてうれしかったです。朝もたくさん遊んでくれて、学校から帰ってきてからも、各々の当番を終えて遊んでくれて、優しい子たちばかりでした。水風船をみんなにも目を輝かせて、みんな興味津々になるとは思っていなかったので、水風船は正解でした。水遊びは想像よりもドロドロになったので、汚れてもいい服装で行くべきですね。朝は、動物たちのお世話と一緒に連れて行って、学校から帰ってきてからは、食べられる植物を教えてください、大縄や追いかけっこをしました。子供たちは元気いっぱいなので、遊ぶ体力を残しておいてください。

最後の夜には、歌とダンスで盛り上げてくれました。我が子のお遊戯会を見守るような気持ちでした。岩田さんが買ってくれたTシャツもみんな前のめりになって真剣に選んでいました。次の日に着てきてねと言ったら、着てきてくれて嬉しかったです。Tシャツとお菓子をすごく大事そうに握りしめていたので、よかったなと思いました。翌日の朝には、楽しそうに買ったお菓子を数えていて、私たちにも分けてくれて本当に優しい子たちでした。今回は、ボランティアで行ったのに、逆にこちらが力をもらって、本当に貴重な経験になりました。言葉が上手に通じなくても、異なる境遇でも、あんなにも仲良くなれて、お別れするのが本当に寂しかったです。子供たちを見ていたら、世界の共通言語は笑顔なのかなと思いました。いつでも笑っていて、楽しそうで、本当に天真爛漫で子供たちからたくさんの愛とパワーをもらいました。私たちも彼らに愛情と力を与えられることができたら幸いです。また行きたいと思います。その時はもっと様々な遊びを用意して、たくさんのプレゼントをもって行きたいです。少しはタイ語が喋れるようになって行きたいと思います。



佐伯 京香さん

カサロンの家に到着した日は、この場所で四日間も生活するなんて耐えられるのかなと思いました。(今思うと、その日は列車での長時間移動もあって心身共に疲れていたのです) 事前のオリエンテーションで、「シャワーもないし水しか出ないよ」などと聞かされていたので、自分の中では覚悟をしていたつもりですが、いざ目の前にすると不安な気持ちが生まれました。しかし、そんな風に思ったのも最初の一日二日くらいまでで、慣れたころには水風呂なんてザバザバ浴びました。料理については、カサロンの家の方々はこちらに合わせてくれたおかげで、ほとんどの物が美味しく食べられました。きっと、最初のおかゆで大半の学生がパクチーを苦手そうにしていたので、翌日からは気を使ってくれたのだと思います。食事の中では、一緒に作ったパイやサラダがとても印象に残っています。お風呂やトイレについてですが、そんなに苦には感じませんでした。ただ、今回は女子生徒の人数が十二名もいたので、ゲストハウスだけでは寝床が足りなかったのは問題だと思います。私は協会に泊めさせてもらったのですが、普段カサロンの家の方々が使っている場所を借りていることに申し訳ないと感じました。また、お風呂とトイレがゲストハウスの方しかないで、全員が済ませるのに時間も掛かってしまいます。なので、次回からはゲストハウスに泊まれる人数までに抑えた方が、学生側もカサロン側もより心地良く過ごせるのではないのでしょうか。



子供たちは、本当に可愛くて元気いっぱいでした。みんなのキラキラした瞳や純粋に遊ぶ姿を通して、心が洗われたように感じます。こちらが用意した縄跳びや水風船などで楽しく遊べて良かったです。他にも追いかけてこしたり、手をつないでグルグル回ったりしてはしゃいだのも楽しかったです。また、カサロンの家にあるお花や木の実を食べさせられたのも、今となっては良い思い出です(笑)最後の夜に行われた交流会は本当に思い出深いものとなりました。希望の家の子供たちもやって来てにぎやかでした。私たちの作った焼きそばと五平餅をみんなが食べてくれて嬉しかったです。歌や踊りの出し物は、ずっと可愛い可愛いと言いながら見ていました。小さな子から大きい子(年齢)まで、一生懸命にパフォーマンスしてくれたのが感動しました。

門谷美里さん

カサロンの家での生活は日本での生活と違いすぎて、4日間も生活できるか不安になりました。しかし、カサロンの家の職員さんや子供たちはとても親切で、快適に楽しく過ごせました。

カサロンの家の子供たちとは、水風船や長縄、折り紙、などをして遊びました。水風船はとても喜んでくれて良かったと思いますが、容赦なく攻撃してくるので濡れます。また、泥が服に付いたりするので、汚れても良い服・靴で遊ぶと良いと思います。折り紙は、いろいろな動物などを折ってあげるととても喜んでくれたので、あらかじめ折り方などを調べておくと良いと思います。長縄は100均で購入しました。一つだけでなく、何個か購入するとみんなで楽しめると思います。



私は、教会の方に宿泊しました。人数分の布団と扇風機が2つあり、思っていたよりも快適でした。虫が入ってくるので、虫除けはあった方が良いでしょう。カエルも何度か入ってきました。コンセントは扇風機を使うと2つぐらいしか使えないので、携帯の充電はモバイルバッテリーを使ったり、みんなで交代で使うなど工夫した方が良いでしょう。教会は物を干す場所がほとんど無いので、もうひとつの部屋の方の場所を借りました。

食事は、口に合わないものはほとんどありませんでした。もしかしたら日本人の私たちに合わせてくれているんじゃないか、と思うほど美味しかったです。私は辛いものが苦手ですが、カサロンの家で出たグリーンカレーは全然辛くなくとても美味しかったです。2日目の昼に、ソムタムというパイアのサラダを自分たちで作ったのですが、辛さも自分たちで調節できたので美味しく作れました。食事の時間の少し前に行くと、食事を作ったり、準備の手伝いをしたりすることができるので、朝など早めに起きに行くことをオススメします。

トイレとお風呂は3カ所しか無いので、順番待ちになることが多々あります。トイレではトイレットペーパーは流せないで注意してください。3カ所のうち2つは洋式トイレで1つはタイ式トイレです。お風呂は水しか出ないので、初めは冷たいと思いましたがすぐに慣れました。ドライヤーは無いので髪の毛は自然乾燥になります。夜は冷えるので風邪を引かないように注意してください。

神谷 梓さん

私はカサロンの家で 4 泊し、今までに経験したことがない様々なことを体験することができました。カサロンの家までの道のりは街灯もなかったため暗く、道も舗装されていなかったため、こんな場所に家があるのかなと感じました。しかし実際カサロンの家に着いてみると、思っていたよりも広くきれいだなと感じました。女子は人数が多かったため、2 つのグループに分かれて宿泊することになりました。私はトイレやお風呂から少し遠い部屋で宿泊しました。私はこの部屋で 4 日間過ごしてみても不便だなと感じたことは特になかったです。トイレやお風呂は離れていましたが、そこまで距離も遠くなく、お風呂は協力し合いながら順番で入るため、生活するにあたって普段とほぼ同じように生活することができたと思っています。ただ 1 つ気になったことは、どうしても虫が入ってきてしまうことです。小さな虫やアリなどは、私は特に気にならなかったですがカエルや少し大きめの虫が入ったときは部屋から追い出すのに苦労しました。



次にお風呂やトイレでは、トイレは日本と同じ様式の洋式のトイレを使用することになったため特に心配はなかったですが、お風呂は不安でした。水浴びだったため、今までそのような経験をしたことがなかったこともあり最初は不安でしたが、段々と日が経つにつれて慣れていき、問題なく水浴びできるようになっていきました。しかし水浴びであるためお腹を冷やさないように気をつけた方がいいかなと思いました。今ではすごく貴重な経験だったなと感じます。

食事では、美味しいものばかりで感謝しかないです。タイの料理を食べたことがあまりなかったため、自分の口に合うか不安でしたが、出される食事全てが本当に美味しかったです。少しだけ私たち日本人の味覚に合うように調理していたのかなとも思いましたが、虫やソムタムなどタイの料理を味わうことができ良かったです。特にソムタムは自分たちで調理し、本当に美味しかったです。何度も何度も味見をしてもらいながら本場の味に再現しました。日本でも食べたいと思える大好きなサラダになりました。他にも特に印象に残っている料理は、マンゴーとお米、アイスと一緒に食べる料理でした。料理名は分かりませんが、とっても美味しかったです。アイスにお米は合うのか不安でしたが、お米自体が少し甘く、スイーツとして食べるような感じでした。とてもいい思い出になりました。

カサロンの子供達との交流では、カサロンの子供達は本当に可愛く、笑顔いっぱい、元気で、親切で、優しくとてもいい子たちでした。私は最初どのように接したらいいか不安な部分がありましたが、子供たちはなりふり構わず笑顔いっぱい私の方に来てくれました。今思えば私の方が逆に笑顔や元気をもらったような気持ちでした。笑顔いっぱい、楽しそう、はしゃぎまくって、いたずらして、でも本当に可愛くて、優しく、感謝の気持ちばかりです。

カサロンの家に着いた初めは何もかもが不安でした。日本での生活とはだいぶ異なるため、どれだけ裕福な暮らしをしているのか改めて感じました。当たり前なことが当たり前ではないことも感じました。家族と一緒に暮らしていることの大切さも知りました。色々なことがカサロンの家で感じ、学べたように感じます。

子供たちと交流するとなぜか温かさを感じました。子供たちはお母さんやお父さん、家族と一緒に暮らしていないため寂しいのかなと感じましたが、全然そんなことを感じさせないくらい明るかったです。私はその明るさに触れて、たくさんの素敵な思い出を作ることが出来たのではないかなと感じました。子供達とは水風船や折り紙、縄跳びなどで遊びました。特に人気だったのが水風船だったと思います。子供達は、自分の分の水風船がなくなったら、手洗い場のところに行き、また新しい水風船をもらうことに必死でした。私は途中から手洗い場で水風船作りをしていましたが、水風船が出来上がると同時に子供たちが我先にと押し寄せてきてつぶれそうでした。本当に必死な子供たちが可愛かったです。子供達はいたずら好きで、至近距離から水風船をぶつけてきたり、背中の服の中に水風船をいれて破裂させようとしたりなど、本当に元気いっぱいやんちゃすぎました。その為、私の服は泥や水で汚くなりました。それも今となってはいい思い出ですが、また来年度以降このプログラムが開催され水風船をやるのであれば、その時は汚れてもいい服でやった方がいいと思いました。

私たちはカサロンの家の方々にお礼として焼きそばと五平餅を作りました。五平餅は早く作れましたが、焼きそばは少し時間がかかりました。しかし大きなフライパンがあったおかげでなんとか時間通りに作り上げることが出来ました。カサロンの家での最後の夜にパーティーをしました。子供達は私達が作った焼きそばと五平餅を美味しく食べてくれました。特に焼きそばは人気で何回もおかわりしてくれて嬉しかったです。五平餅は好き嫌いが分かれたように感じましたが、喜んでもらえて良かったです。その後にカサロンの家の子と希望の家の子達が歌やダンスを披露してくれました。最初は恥ずかしがっていた子もいますが、みんな真剣に楽しそうに歌っている姿や踊っている姿を見て、とても嬉しくなり、素敵な思い出になりました。途中で雨が降ってきてしまいましたが、私たちが持ってきたお菓子や服を嬉しそうに、そしてちゃんと感謝の気持ちを述べてもらってくれました。本当にいい子達だなと改めて思いました。

私たちは出発する直前まで子供達と遊びました。私は折り紙を使って遊んでいました。私は日本で普段折り紙を折らないので、とても苦労しました。そのため動物や、子供たちの折って欲しい物が折れるように、もっと練習しておけば良かったなと感じました。しかし折り紙なら枚数も多く、色も豊富で、たくさんの子達が楽しめるため、持って行って良かったなと感じました。

カサロンの家で過ごした 4 日間は私の中でとても濃い思い出になりました。人の温かさだけでなく、生活をする上で大変さも学びました。カサロンの家での自給自足に近い生活をして、日本がどれだけ豊かなのか、恵まれて生活してい

たのかを感じました。私は当たり前のことを当たり前感じてはいけなと本当に思いました。最初は、4 日間は長いと思っていましたが、すぐに過ぎてしまいました。それだけ充実していた日々を過ごしていたのではないのかなと思います。このプログラムを通して色々な事を学び、感じる事が出来ました。本当にいい機会だったと思います。

浅井紫帆さん

宿泊施設はログハウスと普段は子供たちが勉強をする場所としてや教会として使っている施設の2つに 10 人ずつぐらいに分かれて泊まりました。トイレはログハウスのほうに洋式が2つとタイ式が1つです。教会のほうの施設にはトイレとシャワーはないのでログハウスまでいかなければいけないけれど歩いてすぐなのでそこまで不便を感じることはありませんでした。シャワーはシャワーというよりためてある水を桶ですくって浴びるような形です。早い時間に浴びれば寒くないです。ログハウスのほうは蚊がとて多かったです。蚊帳の中に入れて大丈夫です。食事はおかゆやチャーハン、パン、ヌードルなどどれもとてもおいしかったです。自分ももっと質素な食事を想像していましたが時にはアイスクリームやマンゴーなどのフルーツがデザートとして出され、思ったよりも豪華でした。



子供たちは朝5時に起きて自分の担当している仕事をしてから学校に行く生活をしていました。私よりも自立しているのではないかと感じるぐらいしっかりしている面もあれば、一緒に遊ぶときはやはり子供だなと感じるような無邪気てかわいらしい面も一緒に生活する中で見る事が出来ました。子供たちは喧嘩することなくみんなで支えあって生活していました。カサロンの家では牛や豚、鶏を飼っていて昨日まで生きていた動物たちが今日は食卓に出されているということがあり命をいただいて私たちは生きてることを改めて感じました。

子供達とは鬼ごっこや長縄などをして遊びました。名前を覚えてくれて自分の名前を呼びながら駆け寄ってきてくれることが本当にうれしくもありました、かわいかったです。孤児院にいる子供達は可哀そうとどうしても思いがちだけど実際に訪れてみたら、みんなたくましく生きていて可哀そうと思うことが失礼だと感じるぐらいキラキラしていました。今回のボランティアを通してタイの少数民族が置かれている状況、都市と農村部の格差、孤児院＝可哀そうとは限らないというイメージの変化など多くのことを学び知るきっかけになりました。また親元を離れて暮らしているにも関わらず笑顔で協力し合いながら一生懸命生活している子供たちに元気をもらえたり自分ももっと頑張らなくてはとおもいました。このボランティアで多くの人と関わったこと、その人たちから新たな価値観や考え方を吸収できたことで私自身の成長にも繋げることが出来ました。本当に参加してよかったと心の底から思えるプログラムです。

塚本果歩さん

生活する上で当たり前だと思っていたこと、日本での常識は世界共通ではない、という事に改めて気づかされる体験でした。宿泊施設は自分たちの手で作ったものであったり、毎日の食事はなるべく自分たちの力だけで賄えるように動物を飼ったりと、生きていくためには自分たちでやっていかねばならないという印象を強く感じました。カサロンの家での 4 日間は、初めは不安でいっぱいでしたが、水しか出ないシャワーやニワトリの声で起きる朝、その場でとって食べた木の実など、自然の中でしかできない生活を体験することが出来ました。カサロンの家の子どもたちは、集団の中で



の役割を毎日果たしながらも元気いっぱい遊んでいました。様々な理由があって親と離れて暮らしていますが、今回の交流でより彼らのことを知りたくなったとともに、理解したいと感じました。日本では教育の機会が与えられることが普通ですが、日本から出てみるとそれは当たり前でないのだと実感しました。子どもたちと接していて人とのコミュニケーション力が高く、暗記力があつたりと、賢い子だなと感じる時が多々ありましたが、学ぶ機会さえ持つことが困難な子どもたちが、ここ以外にはまだ沢山いるのだと思うと胸が痛くなりました。日本でも十分な生活をする事が難しい子どもたちがいることは確かですが、日本はとても恵まれた国だと思いました。また、孤児院での 4 日間で様々な人と話し、生活を共にして、学年を超えた関わりが出来た事は良かったと思います。

堀内拓陸くん

カサロンの家の子供たちは、とにかく人懐っこくて一緒にいてとても元気をもらいました。初めて話すきっかけはサッカーで男の子たちの遊びはほとんどがサッカーでした。なのでカサロンの家ではサッカーが得意なほど輝けると思います(笑)。でも本当にスポーツを通してこれほど交流ができるとは思っていませんでした。だからスポーツとして何かできるものを持って行ったらもっとよかったのかもしれないです。あと、男子学生の一人がちょっとしたマジックを披露していました。これは言語が伝わらなくても人をたくさん引き付けていました。こういうことができたりするとさらに打ち解けあえるようになるのではないかと思います。

初め、僕はカサロンの家や希望の家の子たちは親がいても離れて暮らさなければならなかったり、実際に親がいない生徒も多いと聞いていたので、子供たちがあんなに元気にそして楽しそうに生活している姿を見て、想像とのギャップを感じました。そしてこんな子供たちと日本など世界の子供たちの将来が不平等であってはならないと強く思いました。

そして僕はこの活動を通して元気と笑顔をもたらした子供たちに、今度は僕のほうから何かしてあげられるような仕事に就きたいと思いました。また今回は、NPOの方にお世話になりましたが僕も将来は自分たちのような海外に興味を持つ学生と、現地の人をつなぐようなパイプ役になれるような人間にもなりたいたいと思いました。

カサロンの家ではとにかく日本の環境とは違いましたし虫もたくさんいましたが慣れば問題ないです。しかも特に男子ということもあってトイレや宿泊施設の多少のことは気にならなかったです。食事については全体的に思っているよりおいしいものを食べさせてもらったので感謝しかありません。

でも洋服については少し考えたほうがいかなかったです。洗えて乾いてまたすぐ切れると思っていた人も多かったと思いますが、実際は洗濯ができて雨季ということで晴れる日があまりなくて、多少濡れたまま着ることになってしまったひともいたようでした。でも全体的に言えばとても過ごしやすいです。



ナレスワン大学の学生と交流



ドイサケット中高校の学生と交流



ポリラック小学校の児童とちぎり絵



カサロンの家の子も達との交流

お知らせ

～ご寄付のお願い～

各プログラムへのご寄付を広く募集します。ご協力くださる方は、同封の振込用紙もしくは郵便局に備え付けの振込用紙を使用いただき、必要事項及びご寄付を希望のプログラム名（寄付金の使途）を記入してお振込み下さい。尚、寄付金の使途をご指定にならない場合は、こちらで振り分けさせていただきますのであらかじめご了承ください。

奨学金プログラム	1 □	10,000 円
ランチプログラム	1 □	5,000 円
建設プログラム	1 □	5,000 円
図書支援プログラム	1 □	1,000 円
山岳民族支援プログラム	1 □	10,000 円
カンボジア支援プログラム	1 □	5,000 円
運 営 基 金	1 □	1,000 円
会 費 ※	1 年	3,000 円

※ 会員制度とは…

会員になっていただいた方には、年 4 回「ネットワーク通信」をお送りし、キャンヘルプタイランドの活動やイベント情報、タイにまつわるいろいろな情報をお伝えしていきます。年 1 回、会費 3,000 円をお振込みください。

寄付金・会費のお振込みは…

＜郵便振替口座＞

口座名：NPO キャンヘルプタイランド
番 号：00280-2-43793

運営委員会

(2018年8月～10月)

活動	月日	場所	内容
運営委員会	8月		お盆休み
運営委員会	9月	事務所	愛知大学ツアー報告
運営委員会	10月	事務所	翻訳会 カンボジア井戸支援について

運営委員募集中！

通常は毎月第 4 土曜日に事務所に集まり、会の運営について話し合っています。見学でも結構ですので是非事務所へ遊びに来てください。

次回の運営委員会は **開催日未定のため参加希望の方は事務局までメールでお問い合わせください。**

編集後記

先日、テレビで、タイ北部に住むカレン族の村へ日本人家族がホームステイするという番組を放送していました。日本人家族はカレン族の村で電気やガスのない生活を体験し、不便な生活に耐えられない様子でした。その後、今度はカレン族の女性 4 名が来日し、日本人家族の暮らす団地へホームステイしました。カレン族の女性達は、日本の集合住宅の 6 畳間に布団を並べ、日本人家族と生活しました。エアコンや大型テレビ、洗濯機、掃除機、ドライヤーなどの家電に囲まれて、カレン族の人たちはどう思ったのでしょうか？日本に到着しすぐに、カレン族の一人が東京の街並みを見て「色が無い。」とつぶやいたのが印象的でした。

＜キャンヘルプタイランドネットワーク通信 Vol.83＞

発行 NPOキャンヘルプタイランド
 発行人 西川 弘達
 編集人 坂 茂樹
 発行日 2018年11月20日
 住所 〒450-0003
 名古屋市中村区名駅南2-11-43
 NPOステーション内
 Tel & fax 052-566-5131
 (OPEN: 土曜の13~16時頃)

E-mail: office@canhelp.jp
 ホームページ: http://canhelp.jp